

# ほなみ通信

第101号  
2024年2月29日  
社会福祉法人  
坂井輪会

発行元 〒950-2035 新潟県新潟市西区新通4734 TEL 025-269-1600 FAX 025-269-1571

## 道場山 穂波の里 13周年



ホームヘルプサービス穂波の里

自費事業について

管理者 齋藤 麻理

2023年7月まで、運営規程では「要支援者に自費サービスを提供した場合、1時間につき1,200円」と記載されてい

他事業所の料金設定は、1時間当たり3,300〜4,400円のところが多く、介護度に関わらず自費サービスを実施しているところ

した。

介護保険は「ヘルパーが行えないこと」が多くあります。ヘルパーが担わなくても日常生活が送れると判断したことは行えません。

また、介護保険で行っている要介護1〜5の方の通院介助については介護保険上算定できない部分

そのような様々な状況を鑑み、介護度に関わらず自費事業を利用できるよう、内容を検討し、運営

や技術・資格を必要とすること・金銭の取り扱い、危険物の取り扱い

2023年8月より、運営規程を変更後、自費事業の拡大を行いました。地域包括支援センターや

◆要支援の方への通院介助 ◆緊急時の救急搬送同行(もともとヘルパーのサービスを利用されている方)

◆緊急時の救急搬送同行(もともとヘルパーのサービスを利用されている方) ◆同居のご家族がおられる方の掃除

◆要支援の方への通院介助 ◆緊急時の救急搬送同行(もともとヘルパーのサービスを利用されている方)

特別養護老人ホーム道場山穂波の里 デイサービスセンター道場山穂波の里

この度、令和6年1月より、特別養護老人ホーム・デイサービスセンター道場山穂波の里の管理者

道場山は、小規模で家庭的な雰囲気を持つ施設です。スタッフが、ご家族の皆様より「雰囲気の良い温かい」という言葉をいただくことが

住み慣れた地域で、認知症や病気を抱えても、安心して暮らすことを目指し、ご本人らしい生活を最後まで支えられるよう、関わって

管理者交代のあいさつ

新潟市地域包括支援センター坂井輪

センター長 皆川 直史

1月1日付で道場山穂波の里施設長から異動し、センター長に就任しました皆川直史です。

デイサービスセンター穂波の里

管理者 藤田 みゆき

十年前まで、デイサービスセンター穂波の里に勤務していました



私を含め、地震被害の全容が明らかになるまでの地域包括支援センターの業務開始となりました。

Homeヘルプサービス穂波の里 自費サービス. 介護保険でできないことを、自費サービスで対応できる場合があります。お気軽にお問い合わせ下さい。



### 能登半島地震に伴う対応

特別養護老人ホーム 穂波の里

施設長 古藤 悦子

元日の午後、けたたましく鳴り響く緊急地震速報と、長い横揺れ。津波警報のアナウンス。思い返すだけでもゾッとします。施設近くに住んでいますので義母と娘を高台の避難所に送り届けた後、すぐに穂波の里へ向かいました。通常5分で行ける道はすでに渋滞となり、住宅街の裏道から駆け付けましたが、道路の地割れや橋入口の段差が広がり、到着までに10分もかかりました。職員用駐車場の液状化やアスファルトの大きな亀裂を見た時は、地震の凄さに唖然となりました。

すぐに事務室に入り全館放送にて「非常口の確保と利用者の安否確認」の指示を出し、その後、特養・シヨートフロアに行き、勤務職員に被害状況を確認しました。各職員ともに素早い行動で、ほとんどの利用者は食堂フロアで過ごされ、シヨート職員も管理者が勤務していた為、落ち着いて行動しており幸いにも人的被害はありませんでした。しかし、津波警報が出されていることから介護主任と話し合い、2階への垂直避難を行うこととなりました。3基のエレ

ベーターは緊急停止しており、43名の1階利用者は階段で避難しなければならず、寝たきりの方は布団に包みながら職員4人がかりで持ち上げ、歩ける方は階段を一步步づつ引き上げるように移動し、2階の食堂や廊下、交流スペースに畳やマットを敷いて休んでいただきました。



30年目を迎えた穂波の里ですが、2階への全員避難は開設以来初めての事でした。厨房職員からガスとダムウエーターが停止したとの報告を受け、厨房職員が夕食を人海で2階脱衣室へ運び盛り付け対応しました。

超過勤務が可能な介護職員には残業をお願いし、駆けつけた職員で、厨房職員と駆け付けた職員、また避難された入居者のご家族様にご協力頂き、階段で夕食を運び配膳することができました。建物には壁のヒビなど少なからず被害はありましたが、幸いにも停電や断水など水道光熱関係に影響がなかったことも、大きな支障なく過ごせた要因でした。

また、発生時避難所指定されていた新通小学校が施設されており、また元日でしたので、向かいの坂井神社では参拝客で込み合っている状況であったため、発生直後から道場山に多くの方が避難されて来ました。4階の地域交流スペースには40名程が避難され、エレベーターが停止していたため、足の不自由な方は上がることはできませんでしたが、玄関先で待機される方も多く、「ここまで来て入れたから安心だ」と話されていました。

定期的な避難訓練などは実施しておりましたが、今回のような地震や津波などにおいては、本来召集される職員自身が被災し、施設に来ることができない現状があり、自然災害の脅威を痛感しました。それと同時にこのような状況下では、当施設が緊急避難的な役割を担うことの必要性を改めて感

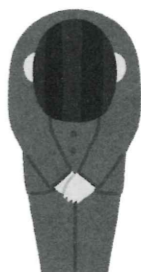
### 皆様の力をお貸しください! ～坂井輪会へのご寄付を お願いします～

能登半島地震で当法人でも液状化現象等により機器損傷や駐車場・建物等に亀裂や地盤沈下被害が出ました。被害総額5千万円強と見積もられ、市や保険会社に相談中です。全ての修繕は困難ですが利用者・入居者の皆様に安心して生活していただけるよう今後も努めてまいります。

坂井輪会へのご寄付・ご支援を何卒よろしく願い申し上げます。

お振込先 郵便局  
口座記号番号  
00580-7-64499  
加入者名 社会福祉法人 坂井輪会

※寄付金控除の対象となり領収書を発行いたします  
※各施設へ直接ご持参いただいたも構いません



も手伝いながら遅い時間に夕食を食べていただきました。お正月という事で献立にお刺身がありましたが、提供時間が遅くなったことで衛生面・安全面を考慮し生ものは控えました。

ご家族の皆様へは1日、2日に分けて生活相談員が連絡をし、施設の被災状況や現状をお伝えしました。施設に連絡することを躊躇いずと心配されていた方、ご家族も被災され大変な思いをされている方等様々でしたが、多くの方は「施設より安否連絡をしてもらいありがたかった」「何も出来な

いが安心して任せられます」と安堵され、ご家族も大丈夫であることを入居者にお伝えしました。

### ケアハウス穂波の里

施設長 内田 浩貴

このたびの災害において被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。2024年元日に発生した能登半島地震後、ケアハウス穂波の里では緊急時の対応マニュアルに沿って、入居者の安否と怪我の有無の確認を職員で行いま

した。一部の入居者の居室にて、化粧台が転倒した方はおりませんが、他は棚やタンスから物が落下する程度で事なきを得ました。ですが、エレベーターが停止し復旧まで約2日を要しました。地震発

生時、入浴や夕食前の為、エレベーターを使用している方も多くおりましたが、幸いエレベーター内に閉じ込められる事はありませんでした。しかしながら、ケアハウスは1階に食堂及び浴室等があり2・3階が住居スペースの為、入居されている約半数の方がエレ



地盤沈下で浮き上がった浄化槽機器



陥没したたんぼぼ小径(現在使用中止)

ベーターを使用しなければなりません。エレベーターの停止に伴い食事は他部署の応援を受け、職員による居室配膳を実施し、入浴は中止を余儀なくされました。また、津波警報発令や余震による不安の訴えが多数聞かれたため、職員は宿直体制をとり夜間帯の精神的ケアにも努めました。その際、入居者の皆様から「おうちは大丈夫?職員さんの家族は無事?」等々こちらに温かいお言葉をいただき、職員が元気づけられました。

も作成はしていましたが、緊急時の職員安否確認連絡は思うようにいかず、津波警報時の職員招集についての危険性等、多くの検討課題を残しました。また、職員から住宅被害報告が30名近くあがっており、当施設の建物被害も細かな補修も含めると数千万円と試算され、厳しい経営への追い打ちと被害の大きさを改めて痛感しています。

### 特別養護老人ホーム 道場山穂波の里

施設長 貝瀬 芳博

地震発生時大きな揺れに見舞われ、津波警報が出る中ではありましたが、道場山穂波の里は高台にあるおかげで、入居者の皆様は生活場所であるユニットから移動せずにご過ごすことができました。大きな不安や慌てる様子はありませんでした。面会されていたご家族の皆様も一緒に寄り添い「大丈夫だよ」と声を掛け合っていたことと安心感に繋がっていたものと感じます。地震による自動感知システムが作動し、エレベーターが停止した状況

## うたごえ広場 in居場所カフェはんぞう

昨年12月7日、新潟大学西門近くの居場所カフェ「はんぞう」でうたごえ広場を開催しました。

近隣地域の皆さんから、歩いて通える居場所「はんぞう」を知ってもらったきっかけとして、うたごえ広場の開催を提案し、オーナーの宮本さんと相談を進めました。道場山穂波の里で、月1回行っている「うたごえ広場」の講師を務めてくださっている藤田実先生にご賛同とご協力をいただき、少人数でも身近な地域の皆さんが、気軽に集い歌える場として誕生しました。

初日は悪天候も影響し13名の参加でしたが、電子オルガンの伴奏でクリスマスソングや冬の時期にちなんだ曲を楽しく合唱しました。参加者からは、定期的な開催のご要望が出され、相談の結果、第3木曜日10時～11時30分の月1回の開催となりました。参加費はドリンク付きで300円です。次回は3月21日開催予定。参加ご希望の方は、

支え合いのしくみづくり推進員

細貝 (211-80084)

までお問い合わせください。



## ツナゲアイプロジェクト にいがた弁当販売

2月2日(金) 11時30分より、ろうきん新潟西支店旧プラザにおいて、新潟大学創生学部澤邊研究室の学生が中心となり、お弁当を販売しました。地域のいろいろな立場の人がつながる場づくりを目指し、企画されたものです。昨年に引き続き、包括と共に、支え合いのしくみづくり推進員も協力させていただきました。

今年度は、新潟市内小学校3校、農家、シエフと協働で開発、「いっぺく」とでも限定100食1食千円で販売されました。ろうきん会場では、この場所をお借りして活動している「介護予防ろうきんさんきん体操」の参加者に案内、事前申し込みを受け、予約販売が行われました。

当日は、介護予防体操参加者の4名がボランティアとして、お弁当の袋詰めや接客等のお手伝いを学生と一緒にやりました。販売終了後は、多世代交流を図る目的で座談会が企画され「区バスの乗り方を教えてもらった」「楽しかった。役割があることは嬉しい。また何かできることがあれば



教えてもらいたい」また「実際に体操を体験したことのある学生さんから「自分は授業がなければ最近まで寝ているような生活をしているが、体操に参加している高齢者は天候にかかわらずに通って介護予防に努めておられずばらしい」と褒められました」とお弁当を食べながら世代を超えて様々な話で楽しまれたようです。  
(坂井輪圏域支え合いのしくみづくり推進員細貝)